

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100013		
法人名	社会福祉法人友和会		
事業所名	グループホームピアポート千寿苑		
所在地	千葉市中央区問屋町6-4		
自己評価作成日	令和 5年 12月 28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和 6年 3月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方らしい生活の実現を目指し、生活歴や現在の意向をもとに馴染みの環境の中で安心して生活を送れるよう支援させていただいています。積極的な関わりを持つことで信頼関係をより深め、利用者様をよく知ること、望む生活に近づけるよう心がけています。館内はバリアフリーで車いすでも安全に移動等ができ、また訪問看護ステーションとも連携を図っている為、ご希望があれば最期まで慣れた環境で過ごしていただけます。今年度はコロナ感染症が5類に変更となったことで、制限は残るものの、ご家族様と直接面会する機会や行事・散歩等で外出する機会も増えました。以前実施していた保育園との交流再開には至っていませんが、今後感染症の動向や社会情勢等を見ながら、地域とのつながりの回復に努め、できる限りご本人の希望に沿った生活が継続できるよう支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍によって外部との関係が思うように取れない現状にあっても、利用者の満足度を少しでも上げられるように代表者、管理者が中心となりグループホームの運営にあたっている。どんなことでも職員からの情報に耳を傾け対応している。同じ建物内には特養、デイサービス、その他の施設が併設されており、コロナ禍にあっても外部と利用者との交流をグループホーム単独の判断では実施できない制約はあったが、今年度は短時間の自室での面会が可能となった。グループホームの活動報告だけでなく、1か月に一度利用者の毎日の様子を知らせる情報提供、また運営推進会議等の開催方法なども他のホームの開催状況の見学等を行い検討するなど、今後を見越して準備を行ってきた。毎年外部評価を受け、利用者、家族の要望や意見をもとにサービスの改善を行っている。アンケートからも家族のグループホームへの信頼感は伺えるがこうした努力の結果であると思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも馴染みの環境でゆったりと楽しく、その人らしい暮らしの中で、喜びと自信を育てましょう」を理念に、各ユニット玄関付近に掲示し、職員間の共有を図っている。また入職の際等に周知している。	日々の実践や会議において当グループホームの理念に沿った実践がなされ、職員間で共有されている。入職の際も周知している。ただし目につきにくい場所に掲示されている。	掲示方法や掲示場所の工夫改善をご検討頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段であれば地域の方に地域交流室を開放したり、近隣の保育園児との交流を実施しているが、コロナ禍においては外出やボランティアの受け入れを休止しており、今年度も地域との関わりは希薄になっている。	コロナの影響で地域交流室を通しての地域との交流、保育園児招待も中止されたままになっている。	施設に含まれる特養、ショートステイ、デイサービスと歩調を合わせる必要があるが、交流再開に向けて地域や保育園の管理者等との関係を絶やさないよう働きかけていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症が5類へ移行したことに伴い、少しずつ外出や外食、散歩等で地域へ出かけられるようになった。地域の方との挨拶やふれあいを通して認知症の状態の方への理解を深めて頂いているがコロナ禍以前と比較すると頻度は少ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も入館制限の為昨年同様の参加者にて開催した。ご家族様の面会が徐々に制限解除されていることもあり、今後の会議の開催方法等について他施設の会議に参加させていただき等し、勉強した。次年度以降は検討した方法でご家族様等含め実施したい。	運営推進会議の参加者は施設長、管理者、居宅介護支援事業所主任ケアマネ、訪問看護師のみで、グループホームの活動状況報告、感染症対応、地域の状況、研修他が議題となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所としてもグループホーム連絡会の窓口としても、必要な連絡等を実施し連携を図れるように努めている。またコロナ禍において必要な情報収集・提供、行政からの情報周知の手伝い等小まめに行うようにしている。	法人理事長は市のグループホーム連絡会の代表でもあり、当ホームが事務局として行政との情報交換、他のグループホームへの情報提供などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置・開催、施設内研修やミーティング等で身体拘束廃止について理解を深めたり、身体拘束を行わないケア方法について話し合っている。ユニットや施設は施錠されず出入りが自由にできる為、他事業所にも資料を配布する等し全体での見守りに努めている。	身体拘束適正化の指針を作成し、委員会は年々4回、研修計画にも年2回テーマとして設定し、すべての職員が身体拘束をしないケアの実践に努めている。同一建物内の他の施設との施錠はされず利用者は自由に出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置・開催、施設内研修等を行い学び機会を設けている。お互いに指摘しあえる環境作りに努める他、入館・面会制限にて外部の目が入りにくい等重なっている為、不適切なケアに繋がらないよう、職員同士で確認している。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容の理解や活用方法等は把握できるように努めている。現在既に制度を利用されている方の他に必要と思われる方はいらっしゃらないが、必要となる可能性のある方には制度についてのご案内を行い、資料作成の協力依頼のある場合はお受けするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には面談やお電話等でご説明やご相談のできる機会を設けている。また制度改正や入居中の疑問や不安等の場合は、電話、メール等でもご説明に努めている。申し込み時、契約前に見学希望のある際は感染対策を実施しながらできるだけ実施できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見を聞きながら生活や行事等の企画運営を行っている。今年度はある程度面会制限が緩和となったこともあり、ご家族様への日常の様子のご報告やお話を伺う等、話しやすい関係作りに努めた。	各利用者と家族の意見や要望を把握するために利用者からはグループホーム内の日常生活の中でよく話を聞き、家族とも密に連絡を取っている。毎年行う外部評価のアンケートも参考にしして利用者や家庭の意見の掌握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や要望のあった際は、管理者より理事長や各担当者に話をし、伝わるようにしている。管理者も面談の他、日頃から職員と積極的に話す機会を作り、意見や提案、改善策等のある場合にすぐに言いやすい関係作りに努めている。	職員は管理者に気軽に意見や要望を述べる雰囲気醸成されている。職員は他の職員と会議や研修を通して、行事なども特徴ある内容にしようと創意工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理型の職員育成を実施し、目標の達成度が次年度の給与に反映される為、職員が明確な目標を持って働ける仕組みとなっている。仕事に対する姿勢や実績、努力と結果等自己評価と管理者から見た状況を施設長等へ報告し、把握できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力や年度目標を把握し、希望があれば勤務の中で研修に参加できるよう調整している。コロナの影響で外部研修の機会も少ないものの徐々に参加回数を増やしながら、施設内での研修を主に実施している。職員の入職等の際は研修、面談、OJT等を実施し育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徐々に対面での研修等も実施があり、電話や、少ないながらも対面での情報共有、施設運営にあたっての工夫等助言をいただく等、度々交流の機会を設けられた。また研修やオンラインを通じ、他事業所の方と交流を図ることができた。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業者から情報を収集し、入居前の生活の様子を知ることによって出来る限り生活が継続できるよう配慮している。また早く慣れていたように、職員から積極的に関わる等支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時、ご家族のみでお話する機会を設け、ご家族の心配事や要望等を話しやすい環境整備を行っている。現在詳細な見学ができない為、パンフレットやお便り等写真を用いる等して分かりやすい説明を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際、困り事や不安をお伺いし、必要に応じ他のサービス申込も含めお話をさせていただいている。入居後の生活支援についてもご本人やご家族様から他のサービス利用のご希望がある場合は、できるだけご希望に沿えるよう他事業所と調整をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動と一緒にいたり、行事や企画の際に利用者様に意見を聞き実施する等で、できる範囲で相談したり協力をいただきながら、暮らしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが5類に移行となったことで、ある程度面会制限が解除された。人数や時間等は制限が残っている為ご不便をおかけしている面もあるが、昨年度に比較するとご家族と直接対面し関わりを持つ機会が増えている。また援助方針等と一緒に考えながらご本人を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ等の影響で通院やご家族様以外の方との面会以外は実施できていない。写真や手紙を送付してもらったり、可能な方はオンライン、制限内での面会をしていただく等関係維持に努めている。	今年度はオンライン利用の他、家族2名、居室での15分間限定の面会が出来た。毎月の報告書には写真も添えて、普段の様子が良くわかると家族からの感謝の声も多い。今までの馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自身から日常的にご一緒に過ごされる方もいるが、その他でも入居者同士の関係を把握し、気の合う方と食事の席を近くにしたり、一緒に行事に参加して頂く等、利用者同士がコミュニケーションをとりやすい環境作りに努めている。話す事が難しかったり耳の遠い方でも職員が間に入りコミュニケーションが図れるようにしている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった場合も、その後のご本人様やご家族の生活について相談し、関係機関との調整を図っている。ご逝去された場合でも可能であれば葬儀への参列をし、故人を偲ぶ機会を持てるようにしている。退居後も来苑し近況をお話して下さる方もおり、良好な関係を維持できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から積極的に関わりをもち、言語での意思表示が可能な方についてはよくお話を伺い、できる限りご本人の意向に沿ったケアを提供できるようにしている。難しい方については、日頃からの表情や言動、仕草や変化、ご家族からの聞き取り等でご本人の希望や意向をくみ取れるようにしている。	家族、本人から今までの生活の様子を聞き、本人の思いや暮らし方の希望に添うよう努めている。日頃から一人ひとりとの積極的なコミュニケーションを大切にし、毎日が快適に過ごせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前やご自宅で過ごされていた際の生活の様子について、ご本人様やご家族様、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業者からお話を伺い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でアセスメントを行い、現状の把握に努めている。普段と違う様子が見られる際は、連絡ノートやミーティング、毎日の申し送りを活用して、職員同士で情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の利用者様との関わりや、ご家族にお話を伺う等し、ご本人・ご家族の意向をくみ取るようにしている。職員間でも連絡ノートや毎日の申し送りを活用して、職員同士で情報を共有できるようにしている。	介護計画はアセスメント、モニタリングを介護支援専門員が行っている。本人、家族の意向を聞き、職員の日々の記録や会議を活用し現状に即した介護計画を作成し、必要時には適宜に見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケース記録、食事・排泄記録として個別に記録している。情報の把握や共有、また介護計画作成時やモニタリングの際のツールとして活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響にて、ご家族様以外の外部の方との接触は訪問看護と往診、理髪に限られた。今年度は訪問リハビリも可能となった為利用したり、その他現状の取り決めの中で実施可能なことを検討し、ニーズに対応できるよう努めた。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ発生以来、地域の保育園との直接交流は実施できていない。今年度は外出が解除となった為、近隣への買い物や散歩、外食等、出かけられることが増えてきている。また希望に応じて随時買い物へ出かける等、地域資源を活用しながら希望に沿った生活に近づけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族との話し合いにて決めていただいている。嘱託医へ主治医を変更する場合も、診療情報提供書をいただき、スムーズに移行できるようにしている。受診時は基本的にご家族の付き添いとなるが、情報提供や職員も同行する等し、ご家族様と共に状況を把握できるようにしている。	入居後のかかりつけ医の選択は本人、家族の意向で決めている。病院受診は基本的に家族が付き添うが職員が同行することもあり、情報は共有されている。24時間対応可能な医療連携の体制があり適切な医療が受けられるよう支援している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来苑し、健康チェックや医療的な処置をして下さっている。不調の際は電話で連絡し、訪問や医療的な助言を受けている。ご家族様との相談も行い、急変時や終末期、受診前後の対応や助言をいただく等連携が図れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には地域生活連携シートや看護サマリー等を提出し、これまでの生活を適切に伝えられるようにしている。退院後の対応や時期、目安等についてもご家族や医療ソーシャルワーカーを通じ、医師・看護師とも連携して退院後の生活を支えられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化された場合の対応を説明し、現状の看取りに関する意向を伺っている。体調に大きな変化があった際や看取り期となった場合には、ご家族に現状や今後予測される症状、施設にできること・できないこと、日常生活の過ごし方等具体的に小まめに話し合い、できる限り思いに沿った支援ができるようにしている。	重度化や終末期に向けた事業所としての方針は入居時に説明し、必要な時には話し合いを重ねている。これまでの看取りの経験から家族・関係者とチームを組んで臨み本人、家族の思いに添った支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で急変時の対応についてマニュアルをもとに話し合ったり、予測し得る状況の対応について訪問看護師に助言をいただく等し、発生した場合に備えている。一日を通じ事業所に職員一人ということはない為、判断に迷った際は他職員に相談したり、訪問看護師に連絡して指示を仰ぐ等し、対応している。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	感染症予防に配慮しながら同一建物内の事業所と訓練を実施している。訓練は火災想定となっている為、津波発生時の対応や水害・土砂災害に対応した非常災害対策計画を作成・調整している。またBCPも他部署と調整しながら作成した。	災害時の福祉拠点は近くのポートアリーナになっているが津波等の災害時には移動のリスクを考慮し、2階の居室から3階以上に避難する計画にしている。今年度は消防訓練をフロアで実施し備蓄品も3日分用意し、BCPも作成できた。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状態が変わった方、新しく入居された方等、背景も含めそれぞれの利用者様を知ること、声掛けを工夫している。排泄や入浴介助の際も自尊心やプライバシーに配慮した声掛けを心がけている。	一人ひとりとのプライバシーを尊重し、気持ち良く過ごせるよう努めている。特に羞恥心に配慮した誘導時の声掛けや丁寧な対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の際洋服を選んでもらったり、選択のできる方には分かりやすい言葉で具体的な選択肢を出し、選べるようにしている。また普段から良く話や希望を聞いたり、変化を観察することで利用者様の意向を生活に反映できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	意思表示の出来る方には、入浴や食事等希望を伺いながら対応している。食事の時間等変更が難しい点もあるが、代替食を用意しておく等、出来る限り臨機応変にその方の生活リズムやペースにあった生活が送れるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れていたり、起床・就寝時には更衣をする等、清潔な洋服を着用していただけるようにしている。選べる方には一緒に選んでもらったり、理髪や髪の毛を丁寧に整える等、その人らしい身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で用意していただける為、料理レクの実施や日頃の配下膳、片付け等は一緒に出来る方と行っている。また外食や苑内で季節感のあるものを調理し味わう等の企画も実施した。その他個人にあった嗜好品を用意する等、食事が楽しみとなるよう工夫している。	副食は併設の厨房で作り、各ユニットでご飯と味噌汁を用意している。調理が好きな利用者が厨房で準備、配膳を行い、皆で下膳、片付けを行っている。季節の行事や料理レクは皆の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調やご本人の状態、これまでの習慣を考慮して、食事の形態や時間を変えたり、好きな飲み物や嗜好品を提供する等、一日を通して必要な水分や食事摂取ができるよう看護師や栄養士も含め相談し、職員同士で連携しながら提供している。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合った声掛けや方法で、歯ブラシや歯磨きティッシュを使用し、口腔ケアを実施している。入れ歯や残歯の手入れ等難しい部分は介助を行ったり、歯科往診も活用しながら清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレにて排泄できるよう、利用者様の排泄パターンを知り、トイレにて声掛けや介助を行っている。生活リズムや様子の変化、ちょっとしたサインへの気付き、羞恥心へ配慮し、必要な部分のみ介助や声掛けを行う等工夫している。	日中は排泄パターンを把握し、さりげない声掛けや誘導で自立にむけた排泄の自立支援を行っている。夜間は本人が起きた時にスタッフが誘導したり、声掛けをして不快の無いよう対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類や水分を多く摂っていただき、体を動かすことで排泄が促されるようにしている。便秘がちな方に対しては、乳製品やオリゴ糖などの摂取を試してみたり、看護師や管理栄養士とも相談しながら下剤のみに頼らない対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は決まっているものの、本人の希望にあわせ曜日や時間をずらし対応している。個々の入浴方法に合わせた支援や会話、ペース等、ゆっくり、また安全に入っていただけできるよう、準備や見守り・介助を実施している。	入浴時間は毎日10時～16時で本人の希望、体調をみて週2～3回入浴できている。夏場や突発時にはシャワー浴で対応したり入浴拒否の方には対応を替えたり工夫して楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の寝具を持参していただいたり、清潔保持・照明や室温等の環境整備に努めている。また入床の時間も個々の生活ペースにあわせ、眠れない様子が見られるようであれば声掛けや一緒に過ごす等し、落ち着いて休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明を読み、効能や特徴等の把握に努めている。変更等があった場合には、服薬前後の本人の状態を観察し、看護師とも情報を共有している。また誤薬のないよう、チェック表を作成し二人以上で確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方には家事活動のお手伝いをさせていただき、役割が持てるようにしており、主体的に参加される様子もある。外出や買い物、調理レクや季節の行事等企画・実施し、楽しみや気分転換の機会がもてるよう配慮している。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類に移行となり、外出や外食、散歩や買い物の支援も実施できるようになった。ご本人の希望を聞きながら計画、実施している。またご家族様の希望があればご家族様との外出もしていただき、楽しみが持てるよう努めている。	コロナ禍で中止していた近隣の散歩や少人数での外食、買い物等が再開出来るようになった。本人、家族からの要望も多いので、これからの季節は出来るだけ外出の希望に添えるよう支援していきたい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方が多い為、基本的には預かり金として保管しているが、欲しい物があつたり、本人から申し出があつた場合には、預かり金を出してもらい、使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方の操作代行や、電話の取次ぎ等を行っている。希望のある際は電話を掛けたり、手紙を代読する支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの整理整頓や清掃を行い、安全・快適に過ごせるようにしている。居心地の良い空間作りに心がけ、利用者の嗜好に合わせテレビのみでなく音楽をかける等している。外出にて季節感を感じることができなかった為、折り紙や飾り物等を利用者様と作成し掲示する等、目で見て楽しめるよう工夫した。	共有部分のパブリックスペースには手すりもあり、歩行練習やお喋りしたりと活用されている。各ユニットの壁にはイベントや利用者の笑顔の写真が沢山貼られ、折り紙や季節感を取り入れた飾りを工夫している。遮光、音量、換気、加湿、にも配慮し、安心、安全に過ごせるよう毎日掃除、消毒を行い居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性や身体的な能力に配慮し、それぞれが共有空間で過ごしやすいような座席を考えている。ソファやリクライニングチェア、離れた場所へのテーブル設置等、それぞれの体調や気分に合わせて過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのものもあるが、これまで使用されていた物や馴染みの物等はご持参いただいている。面会の際等にご家族様と配置の相談をしたり、ご本人とも使い勝手等を確認しながら、心地よく過ごせるようにしている。	入口の引き戸は落ち着いた色合いで、居室には本人の馴染みの物を置いている。壁には家族との写真や飾り物が沢山貼っている方等それぞれが工夫している。出来る方は職員と一緒に掃除を行い清潔、安全に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーとなっており、安全に移動しやすくなっている。それぞれの能力を見極め、その方に合わせた声掛けや見守り、介助の範囲等を工夫している。また家事活動、入浴、排泄等利用者様にご自身でやりやすいような物の配置や掲示に工夫している。		